

## 馬淵繊維「さぬき木綿」



有機栽培の綿花を収穫する馬淵馬淵繊維社長（左）と近藤大正紡績取締役

馬淵繊維は、自社農場で育てていた綿花を収穫、来年1月には大正紡績が系にし、春にはニットにして販売する。すでに百貨店などから引き合いが来ている。国内で有機栽培された綿花が、商品として販売されるのは珍しい。両社ではオーガニックの「さぬき木綿」として広く普及させる。

綿花は今年5月に植えつけた。アップランド綿と茶、緑の和綿の3種類。4日に行った収穫は馬淵繊維の社員、地元の行政関係者や大正紡績の近藤健一取締役営業部長などが集まった。「来年は奈良、愛媛で育てた綿花で靴下を作りたい」というタビオの越智直正会長も飛び入り参加した。

収穫した綿花は400キロ。

### 有機栽培、種から一貫の国産です

## 大正紡績と組みニットに

初年度で少量だが、「大変いい綿花が育った」と世界の綿花に詳しい近藤大正紡績取締役。30番双糸、40番三子糸にし、ニットを生産、馬淵繊維が進める製品OEM（相手先ブランドによる生産）「アイランドテック」企画などで販売する予定。

糸から製品までの一気通貫型の生産が増えているが、これは「綿の種からの一気通貫型」で、「究極のトレーサビリティ」（履歴管理）。これほど原産地が明確なものはない」としている。

収穫前から大手百貨店などから取り組みの話が来ているが、本格展開すれば「引き合いは殺到する」とみている。馬淵繊維は「来年、綿花は1万坪の土地で栽培する」（馬淵義夫社長）計画。